



## 研究テーマ

相手意識をもち、自信をもってコミュニケーションを  
図ろうとする態度を育成する英会話指導の在り方～  
小中の円滑な接続を可能とする文字指導を通して～

### 1 主題設定の理由

水戸市では、平成16年度から「水戸市幼小中英会話特区」として、平成21年度からは小中学校で「教育課程特例校」として、全学年で英会話教育に取り組んできた。幼稚園では「英語に触れる」小学校低学年では「英語に親しむ」中学年では「英語に慣れる」そして、高学年では「英語を使う」ということを中心に行っている。これらのことを経て、中学校では4つの技能（「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「読むこと」）の育成を図るのだが、中学校に入学して間もない時点ですでに個人差があるのが現状である。小学校段階での活動は「聞くこと」「話すこと」の言語活動に重点を置くこととされているが、中学校外国語科での活動では、これらの2つの技能と併せて新たに「読むこと」及び「書くこと」も取り扱うこととなる。中学校に入学と同時に、4つの技能を一度に取り扱うこととなる点に指導上の難しさがあるのではないかと考えた。このようなことから、中学校での「書くこと」「読むこと」の学習につなげるために、小学校高学年から文字と音声を意識させた活動を取り入れることで、中学校との円滑な接続が図れるのではないかと考え本主題を設定した。

### 2 研究のねらい

小中の円滑な接続のために、第6学年の“Introducing”において、「書くこと」を取り入れた授業の実践を通して、小学校外国語活動における文字指導の有効性について究明する。

### 3 研究の仮説

第6学年の“Introducing”での「書くこと」における中学校の学習内容を見据えた文字学習を実感していけば、児童が相手意識を高め、自信をもってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができるようになるであろう。

### 4 研究の内容

#### (1) 基本的な考え方

小中の円滑な接続に向けての基本的な考え方として、相手意識と小中連携を意識した文字指導が重要であると捉える。

#### ① 相手意識について

学習活動において、自分の気持ちを相手に伝え、相手の主張や気持ちを理解し、接点を見いだしていくことは大切である。そのため、言語を適切に使えることに加えて、伝えるための工夫や努力が必要とされる。これらは、「相手意識」をもつことによって生まれる。つまり、これはコミュニケーション能力であり、小学校外国語活動で育てたい力である。英語の楽しさを実感するコミュニケーション活動によって、児童は英語で自分のことを相手に伝え理解してもらう喜

びを感じ、外国人とコミュニケーションする意欲がはぐくまれる。そして、もっている知識や能力をもとに積極的に自分の気持ちを表現し、理解し合えるまでになると考える。

## ② 小中連携を考えた文字指導について

小中が連携し、継続的な英語教育を行うには、小中の教員が互いの教育内容や指導方法、さらには、小中連携の在り方について共通理解を図ることが重要である。水戸市では、小学校・中学校の教員の相互の授業参観を奨励している。また、年に数回の情報交換の場を設けている。そこで分かるのは、教師の意識の違いである。小学校外国語活動を通して育てたいこととして、小学校教員は「態度」の育成に重きを置いている。(表1)これは、小学校の英会話活動の目標に「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成」や「英語に慣れ親しむこと」を置いていることからであろうと考えられる。いっぽう、中学校教員は「アルファベットを読む」「ローマ字を習得する」など中学校での「読むこと」や「書くこと」につながる技能を小学校活動で育ててほしいと願っている。(表2)中学校の英語学習にスムーズに移行していくためにも、今後、小学校外国語活動における「望ましい文字指導の在り方」を検討していかなければならない。

## (2) 主題に迫るための場の工夫

### ① 相手意識をもつための場の工夫

#### ア 相手意識を持つ場の設定

- ・「相手に伝える」ということを意識した単元の課題設定
- ・課題解決のためのインタビュー・会話を取り入れた学習活動
- ・「伝える」ことに視点を置いた発音練習

#### イ 話合いの場の設定

- ・スムーズに話合いを進めるためにリーダー児童を全グループに設置  
(リーダー児童：英語を習っている児童、または英会話の学習に意欲的な児童)

#### ウ 表現する場の設定

- ・「書くこと」「話すこと」これらの活動のために HRT, AET からの助言
- ・音声と文字との関係を意識しながらの発音練習
- ・アイコンタクト, 声の大きさ, ジェスチャーなどを考えた発表

#### エ 評価し合う場の設定

- ・目的に応じた自己・相互評価の場

### ② 小中連携を考えた文字指導の工夫

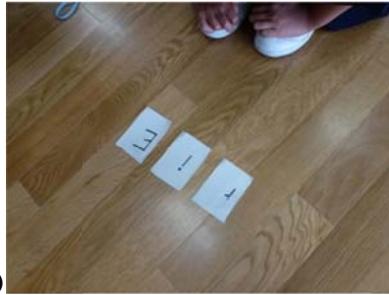
#### ア 方法の検討

- ・相手意識・目的意識に応じた単語や文を書く学習(実践1)
- ・相手に伝えるために英語で話す学習(実践1・2)
- ・アルファベットを読んだり書いたりする学習(実践2)
- ・フォニックスを取り入れた学習
- ・Hi, friends!を使用した学習

## (3) 授業の実践

### ① 単元名 新しい AET に「大場」を英語で紹介しよう





(資料 1)

(資料 2)

<実践 2 について>

(1) 単元の目標と評価の観点

○紹介に使う英語表現を知り，積極的に使おうとする。

(関心・意欲・態度)

○相手意識をもって，「大場」の紹介を簡単な英語で書いたり，話したりしようとする。

(コミュニケーション能力)

(2) 活動計画 (4 時間扱い)

相 相手意識をもつ場の設定    表 表現する場の設定  
話 話合いの場の設定表評    評 評価し合う場の設定

時	1	2	3	4	5
主 な 活 動	○ライアン先生に紹介することを決めよう。	○紹介することを調べたりインタビューしたりしよう。	○紹介することを英語でまとめよう。	○紹介することを伝える練習をしよう。	○ライアン先生に大場のことを英語で紹介しよう。
	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">相</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">話</span>	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">相</span>	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">表</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">評</span>	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">相</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">表</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">評</span>	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">相</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">表</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">評</span>
<主な言語活動> My name is ～. Oba, teacher, piano, junior highschool, school など					

(3) 授業の展開

学習内容・活動	指導上の留意点
1 始めのあいさつをする。 Good morning. How～, What～? 2 フォニックスの練習をする。 3 AET に紹介することについての単語の発音練習をする。 My name is～, Oba, teacher, piano, Junior highschool 4 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             ライアン先生に紹介したいことを簡単な英語で書いてみよう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣れたあいさつをすることで，一人一人の児童に自信をもたせ，活動の意欲付けをする。</li> <li>音楽のリズムに合わせてながらフォニックスを行い，英語の発音を確認する。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>AET</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発音の仕方が分かるようにはっきりと発音する。</li> </ul> <p><b>HRT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時は，紹介することを英語で書く学習</li> </ul>



てみよう」ということで、AETの発音を真似ながら、練習した成果を発表できた。

## 6 研究の成果

- (1) 外国語活動はじめ言語活動において、相手意識をもちながら学習することは、コミュニケーション能力を高めるために有効であった。
- (2) 小学校での児童同士、教師の支援を得て行う「書くこと」を中心とした学習により、語彙の広がりや、文字・音声の関係に焦点を当てる授業ができた。
- (3) 小学校高学年における英会話の学習の中で、文字を扱う際に、気付いたことや興味をもったことを教師が丁寧に取り上げながら活動を促すことで、児童の文字に対する負担感が軽減されると感じた。

## 7 今後の課題

- (1) 相手意識をもつ場の設定やフォニックスを取り入れた文字学習の工夫を研究し、継続性のあるものとしていきたい。
- (2) 中学校との情報共有や授業交流による実態把握と小中学校の連携の強化に努めていきたい。

### <付録>

平成26年5月 千波小学校、千波中学校職員（学級担任）対象アンケートより

表1 小学校外国語活動を通して育てたい態度・育ってほしい態度

	小学校（25人） 平均	中学校（11人） 平均
①相手の目を見て話す。	4.70	4.67
②ジェスチャーを付けて話す。	4.10	4.00
③表情豊かに話す。	3.72	4.22
④誰とでも積極的に話す。	4.51	4.75
⑤会話をつないでいこうとする。	3.65	3.98
⑥AETの話を分かろうとする。	4.00	4.23
⑦外国の人に積極的に話しかける。	4.10	4.00

注：最大値＝5.00 最小値＝1.00

表2 小学校外国語活動を通して育てたい技能

	小学校（25人） 平均	中学校（11人） 平均
①簡単な英単語の文字を見て意味が分かる。	3.30	3.24
②英単語を正しく発音する。	3.72	3.54
③ローマ字を習得する。	3.56	4.24
④アルファベットを読む。	3.65	4.43
⑤アルファベットを書く。	3.22	3.58
⑥簡単な英文を書く。	2.00	2.52
⑦AETの話の理解	3.96	3.62

注：最大値＝5.00 最小値：1.00

